

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成17年7月14日(2005.7.14)

【公表番号】特表2001-512965(P2001-512965A)

【公表日】平成13年8月28日(2001.8.28)

【出願番号】特願平10-533032

【国際特許分類第7版】

C 1 2 N 15/09

A 6 1 K 38/46

A 6 1 K 47/48

A 6 1 P 35/00

C 1 2 N 1/15

C 1 2 N 1/19

C 1 2 N 1/21

C 1 2 N 5/10

C 1 2 N 9/78

//(C 1 2 N 15/09

C 1 2 R 1:35 )

【F I】

C 1 2 N 15/00 Z N A A

A 6 1 K 47/48

A 6 1 P 35/00

C 1 2 N 1/15

C 1 2 N 1/19

C 1 2 N 1/21

C 1 2 N 9/78

C 1 2 N 5/00 A

A 6 1 K 37/54

C 1 2 N 15/00 Z N A A

C 1 2 R 1:35

【手続補正書】

【提出日】平成16年10月27日(2004.10.27)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】補正の内容のとおり

【補正方法】変更

【補正の内容】

## 手続補正書

平成16年10月27日

特許庁長官 殿

## 1. 事件の表示

平成10年特許願第533032号

## 2. 補正をする者

名称 エンジン、インコーポレーテッド

## 3. 代理人

住所 東京都港区虎ノ門4丁目3番20号

神谷町MTビル19階

電話番号 03(5425)1800

氏名 (9109) 弁理士 平木 祐輔



## 4. 補正対象書類名

請求の範囲

## 5. 補正対象項目名

請求の範囲

## 6. 補正の内容

請求の範囲を別紙のとおり補正する。



(別紙)

## 請求の範囲

1. 配列番号 2 のアミノ酸配列を含むアルギニンデイミナーゼ酵素をコードする単離された核酸分子。
2. 配列番号 1 の核酸配列を含む請求項 1 に記載の単離された核酸分子。
3. 配列番号 1 の核酸配列が、ヌクレオチド 39 における T、ヌクレオチド 104 における C、ヌクレオチド 206 における A、ヌクレオチド 729 における A、ヌクレオチド 337 における G、ヌクレオチド 830 における C、ヌクレオチド 1023 における C、ヌクレオチド 6 における A、ヌクレオチド 15 における T、及びヌクレオチド 18 における C からなる群から選択されるヌクレオチド置換により変異を誘発されている請求項 2 に記載の単離された核酸分子。
4. RNA 分子及び DNA 分子からなる群から選択される請求項 1 に記載の単離された核酸分子。
5. 請求項 1 に記載の核酸分子に相補的な単離された核酸分子。
6. 調節配列に機能可能なように結合した請求項 1 に記載の核酸分子を含む発現ベクター。
7. 調節配列がプロモーターを含む請求項 6 に記載の発現ベクター。
8. プロモーターが誘導可能なものである請求項 7 に記載の発現ベクター。
9. プロモーターが、 $\beta$ -ラクタマーゼプロモーター、lac プロモーター、trp

プロモーター、phoA プロモーター、araBAD プロモーター、T7 プロモーター、 $\lambda$ PL 及び PR プロモーターの誘導体、及び  $\text{O}_L/\text{P}_R$  ハイブリッドプロモーターからなる群から選択される請求項 6 に記載の発現ベクター。

10. プラスミド、ファージ及びコスミドからなる群から選択される請求項 6 に記載の発現ベクター。
11. プラスミド pEN232 を含む配列番号 1 の核酸分子を含む、EN231 と指称するクローン。
12. 請求項 1 に記載の核酸分子を含む組換え宿主細胞。
13. 原核宿主細胞及び真核宿主細胞からなる群から選択される請求項 12 に記載の宿主細胞。
14. 細菌及び酵母からなる群から選択される請求項 12 に記載の宿主細胞。
15. 大腸菌である請求項 14 に記載の宿主細胞。
16. 配列番号 2 のアミノ酸配列を含む単離されたアルギニンデイミナーゼ。
17. 約 3～約 30 IU/mg の比活性を有する請求項 16 に記載の単離されたアルギニンデイミナーゼ。
18. a) 請求項 12 に記載の宿主細胞を培養し、  
b) アルギニンデイミナーゼを前記宿主細胞中で発現させることを含む方法により製造されたアルギニンデイミナーゼ。

19. a) 請求項 12 に記載の宿主細胞を培養し、  
b) アルギニンデイミナーゼを前記宿主細胞中で発現させることを含むアルギニンデイミナーゼの製造方法。
20. a) 宿主細胞を請求項 6 に記載のベクターにより形質転換またはトランスフェクトし、  
b) 形質転換またはトランスフェクトされた宿主細胞を培養し、  
c) 培養宿主細胞中にアルギニンデイミナーゼを発現させることを含むアルギニンデイミナーゼの製造方法。
21. 発現されたアルギニンデイミナーゼを回収することをさらに含む請求項 20 に記載の方法。
22. 発現されたアルギニンデイミナーゼを宿主細胞から抽出し、発現されたアルギニンデイミナーゼを復元することを含む方法によりアルギニンデイミナーゼを回収する請求項 21 に記載の方法。
23. 配列番号 3、配列番号 4、及び塩基 6 において T を A に、塩基 15 において C を T に、塩基 18 において T を C に置換するように改変された配列番号 3 及びこれらの組合せからなる群から選択されるプライマー対を使用したポリメラーゼ連鎖反応により *Mycoplasma arthritidis* ゲノムから増幅された単離された核酸分子。
24. 非抗原性ポリマーに共有結合された、*Mycoplasma arthritidis* から得られた精製アルギニンデイミナーゼ(ADI)を含む非抗原性ポリマー-アルギニンデイミナーゼコンジュゲート。
25. ADI がアミノ酸配列番号 2 を含む請求項 24 に記載の非抗原性ポリマー-ア

- ルギニンデイミナーゼコンジュゲート。
26. 非抗原性ポリマーがポリアルキレンオキシドを含む請求項 24 に記載の非抗原性ポリマー-アルギニンデイミナーゼコンジュゲート。
27. ポリアルキレンオキシドがポリエチレングリコールである請求項 26 に記載の非抗原性ポリマー-アルギニンデイミナーゼコンジュゲート。
28. 非抗原性ポリマーがモノメチル末端化ポリエチレングリコール(mPEG)である請求項 26 に記載の非抗原性ポリマー-アルギニンデイミナーゼコンジュゲート。
29. 非抗原性ポリマーが約 200～約 60,000 の分子量を有する請求項 24 に記載の非抗原性ポリマー-アルギニンデイミナーゼコンジュゲート。
30. 非抗原性ポリマーが約 1,000～約 40,000 の分子量を有する請求項 29 に記載の非抗原性ポリマー-アルギニンデイミナーゼコンジュゲート。
31. 非抗原性ポリマーが約 2,000～約 12,500 の分子量を有する請求項 30 に記載の非抗原性ポリマー-アルギニンデイミナーゼコンジュゲート。
32. 非抗原性ポリマーが、デキストラン、ポリビニルピロリドン、ポリアクリルアミド、ポリビニルアルコール、及び炭水化物系ポリマーからなる群から選択される請求項 24 に記載の非抗原性ポリマー-アルギニンデイミナーゼコンジュゲート。
33. アルギニンデイミナーゼ及び非抗原性ポリマーの間にカルバメート結合またはアミド結合をさらに含む請求項 24 に記載の非抗原性ポリマー-アルギニ

ンデイミナーゼコンジュゲート。

34. 請求項 16 に記載の単離されたアルギニンデイミナーゼを含む、哺乳動物におけるアルギニンデイミナーゼ感受性症状を治療するための医薬組成物。
35. 請求項 24 に記載のコンジュゲートを含む、哺乳動物におけるアルギニンデイミナーゼ感受性症状を治療するための医薬組成物。
36. 請求項 21 に記載の方法により製造された生成物。
37. アルギニンデイミナーゼ感受性症状がアルギニンデイミナーゼ感受性腫瘍または癌である請求項 34 に記載の医薬組成物。